# ふるさと再発見 第95回
Re:discovery Omihachiman

## 安土城築城４５０年⑧
## 節目ごとに変わる、安土城へのまなざし

築城から４５０年を迎えた安土城。市内を歩いていると、記念看板やのぼり旗などをあらゆるところで見かけ、地域における機運の高まりを感じます。

安土城は、織田信長が天正４（１５７６）年に築城を開始したとされ、令和８年はそこから４５０年にあたります。では、これまでの節目の年、人々は安土城とどのように向き合ってきたのでしょうか。

ちょうど１００年前、築城３５０年にあたる大正15（１９２６）年は、安土城にとって大きな転換点でした。大正７（１９１８）年には安土城跡の保存と織田信長の顕彰を目的として、（一社）安土山保勝会が設立され、大正13年に史跡に仮登録、大正15年には国の史跡に指定されました。安土城は城跡として眺めるだけの存在から、未来へ残すべき文化財として捉えられるようになったのです。

築城４００年にあたる昭和51（１９７６）年には、消失した安土城天主の姿を明らかにしようとする研究が進展しました。名古屋工業大学名誉教授の内藤昌氏は、発見された「天守指図」（静嘉堂文庫蔵）と発掘調査の結果を基に復元案を発表。内部に地階から3階までの吹き抜け宝塔があったとする壮大な案です。

また、築城年の節目ではありませんが、昭和56（１９８１）年には、織田信長没後４００年祭が行われています。馬揃えや砲術の披露、野点茶会、講演会、ステージ発表など、地域の人々が一体となって織田信長を顕彰し、楽しんだ様子が記録されています。

そして築城４５０年である今年、県では発掘調査が進められ、新しい発見やこれまでの成果の再確認が期待されています。本市では、ＶＲで戦国時代の安土城や城下町を体験できる「安土城タイムトリップＶＲ」の運用を開始し、安土城をより身近に、楽しく学べるようになりました。

築城からわずか６年でその姿を失った安土城。しかしその後の城郭や歴史に与えた影響など歴史的意義は大きく、４５０年を経た今もなお多くの人を惹きつけています。それぞれの節目に残された記録をたどると、安土城そのものだけでなく、安土城を後世に伝えたいという人々の想いが、時代を超えて受け継がれてきたことに気づかされます。築城４５０年の歴史は、人々が安土城に寄せる想いの歴史とも言えるのではないでしょうか。

文（文化振興課・永福）


天主内部（VR 安土城：天主復元は内藤昌氏監修）


織田信長没後 400 年祭（昭和 56 年）

編集・発行／近江八幡市総合政策部秘書広報課
〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236
TEL：0748(33)3111　FAX：0748(32)2695
MAIL kouhou@cityomihachiman.lg.jp
WEB https://www.cityomihachiman.lg.jp

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

YouTube　Instagram　マチイロ　マイ広報紙　LINE

### 人口と世帯
令和8年10月1日現在
（　）は前月比

| | | |
|---|---|---|
| 総数 | 81,698人 | （－ 6） |
| 男 | 40,167人 | （－ 7） |
| 女 | 41,531人 | （＋ 1） |
| 世帯 | 36,756世帯 | （＋ 9） |

※外国人住民（43か国・地域／2,445人）を含みます。

●インキ：環境配慮型インキ（植物油インキ or ノンVOCインキ）
●印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷